

五

12

丙
昭和九年九月七日

立案 昭和九年九月七日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故正六位上 重五等 神田清治 位階追授
件

昭和九年九月六日裁可
九月七日官報報告濟
降令九月七日

宮内省

裏面白紙

35



故正六位勲五等神田清治位階

追陞ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和九年九月六日

内閣總理大臣岡田啓介



内

閣

内位第二ニニ號

案起

昭和九年九月六日

裁可

昭和九年九月

月

日

施行

昭和

年

月

日

内閣總理大臣 **加**

内閣書記官長



内閣書記官



故正六位勲五等神田清治ハ別紙内務大臣上奏ノ通功績顯著ナル者ニ候處本月四日死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通位階追陞ノ件上奏相成然ルヘシ故正六位勲五等神田清治

内閣

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

正六位勲五等神田清治

叙從五位

九月四日付

叙従五位

改正六位勳五等

神

田

清

治

右者明治十四年三月以來千葉縣十等警部、警部、補警部ニ歴任、明治三十年三月同縣香取郡長ニ昇任、七月退官、翌三十一年七月富山縣警部トナリ、十一月千葉縣警部ニ轉シ、三十二年十二月同縣海上郡長ニ任セラレ、千葉郡長ニ轉シ、大正二年三月退官ニ至ルマテ高等官在職十三年九ヶ月ニ及ビ、郡治上顯著ナル成績ヲ舉ケ勤勞尠カラス、郡長退官後ハ千葉縣米穀検査所長トシテ在職六年七ヶ月ニ及ビ、其ノ間同縣穀物検査制度實施ニ關シ貢獻スル所アリ、尋テ又同縣千葉郡千葉町長ニ就職、市制施行ニ當リ、引續キ同市長ニ就任シ、前後在職四年十ヶ月間公同事務ニ

内務省

盡瘁シ功勞尠カラス候處本月四日疾病ニ因リ死亡ニ付特ニ生前ノ日付ヲ以テ頭書ノ通位一級追陞在ラセラレ度履歷書功勞調書ヲ具シ謹テ奏ス

昭和九年九月五日

内務大臣 後藤 文



功勞調書

一、米穀検査所長トシテ

清治ハ大正二年四月本縣米穀検査所ノ創設セラル、ヤ初代所長トシテ就職シ大正八年十月退職、至ルマテ在職六年七月、及ヒ其ノ向本縣産米改良上ノ功績顕著ナルモノアリ
由來本縣産米ハ維新前房總米トシテ江戸市場ニ移出セラル相當聲價ヲ博シタリシカ明治七年貢米制度ノ変更ニ伴ヒ米ニ對スル諸般ノ拘束ハ一時ニ徹廢セラレ生産者ノ自由ニ委シタル為生産ハ自然放漫ニ陥リ殊ニ收納後ノ處理ニ至リテハ觀ル者ナキノ状態ニシテ米質ノ低下ト共ニ乾燥・調製・俵装等次第ニ粗

千葉縣

惡シ流レ腐敗、麥質、乱俵、脱漏等甚シク剩ハ容量ハ確實ヲ欠キ且ツ各郡容量ヲ異ニスル等縣内取引ハ勿論縣外取引ノ圓滿ヲ欠キ市場聲價ヲ失墜シ此ノ間生産者ハ奸商ニ乘セラル、等直接・間接ニ蒙リタル不利益蓋シ甚大ナリシモノアルニ鑑ミ縣ハ根本的ニ之レカ改良ノ必要ヲ認メ大正元年米穀検査ノ方針ヲ計劃シ次ニ諸般ノ準備ヲ整ヘ大正二年四月米穀検査所ヲ創設シ當時縣下千葉郡長タリシ清治ヲ^{探用}聘シテ初代所長ニ任シ検査規則ノ制定其ノ他執行上諸般ノ準備ニ當ラシメタルモ當時一般當業者ハ検査制度ニ理解ナク或ハ舊慣ニ捉ハレ改良ヲ阻止スルモノア

リ且ツ職員ハ何レモ之ガ知識ニ乏シク為ニ検査
事務執行上幾多ノ困難ヲ感シタリシカ清治
ハ克ク萬難ヲ排シテ内ニ職員ノ教養ニ努メ
外ニ検査主目日ノ徹底ニ或ハ地主小作者ノ融
和親善ニ或ハ検査ノ統一ニ又ハ稻架乾燥ノ
普及及獎勵ニ調製器具ノ改善ヲ促シテ産
米品位ノ向上ヲ期スル等終始検査ノ圓滿ナ
ル施行ト産米品質ノ向上ニ全ク傾注シ本
縣産米改良上基礎ノ確立ニ努メタル結果
翌大正三年ニハ一躍シテ市場聲價ヲ挽回
シ漸次市價ノ昂上ヲ見ルニ至リ用未愈ニ
内容ノ充實ニ努メタル為今々本縣米ノ市
場ニ重要ナル地位ヲ占メ他府縣産米ヲ凌
駕スルニ至レリ之レ全ク清治積年努力ノ賜ニ
シテ其ノ功績ノ顯著ナル衆人ノ認ムル所ナリ
又大正七年小麦検査ノ併置セラルヤ自ラ
之ヲ調査研究ニ或ハ諸般ノ準備ニ當リテ
レ又圓滿ナル施行ヲ見市場ノ聲價ヲ頓ニ
昂上セシメタル等本縣穀物改良上真獻セ
ル功績蓋シ甚大ナルモノアリ

二 千葉市長トシテ

(一) 市制施行

千葉市ノ市制施行ハ實ニ大正九年十二月二十七日
内務省告示第百二十七号ニ依リ大正十年一月一日
ヨリ實施セラル清治ハ當時市長臨時代理者トシテ
市役所ノ位置ヲ定メ次テ書記以下吏員ヲ任命シ
條例其ノ他重要ナル規程十七件ヲ設定シ收支
假豫算ヲ定メテ事務ヲ開始シ同年三月上旬
市會議員ノ選舉ヲ行ヒ次テ市長選舉助役
收入役ノ選定ヲ行フ等其ノ事務條約ノ姓名狀
スヘカラサルモノアリ是ヨリ先加藤(明治三十九年町長
就任)遠山(和田)三町長ヲ經テノ懸案タリシ市
制施行ハ清治ノ町長在職中大正九年三月

又モヤ議題ニ上リシガ當時町ノ財政上ヨリ見テ
市制施行ハ尚早ナリトノ反對意見見極メテ多數
ナリキ清治ハ此ノ間ニ處シ至誠ト熱意トヲ以テ
輿論ヲ導キ町會滿場一致ノ可決ヲ以テ同市
ノ基礎ヲ築キシモノニシテ素ヨリ有力ナル後援者
ノ助力ハ看過スヘカラサルモノアリシト雖モ清治ノ
成績又決シテ没スヘカラス

(二) 滞納整理

縣稅徵收ニ関スル郡長ノ所管事務ハ市制
施行ノ結果徵稅令書ノ發付ヨリ收入及滞納
處分ノ執行ニ至ル迄總テ市長ノ所管トナリ從テ
縣稅徵收ニ関スル一切ノ事務ハ大正十年二月八
日ヲ以テ千葉郡長ヨリ引継ヲ受クルニ至レリ而

シテ其ノ滞納ハ大正八年度以前ニ屬スルモノ千五百
三十五円五錢此ノ人員七百四十六人同九年度ニ
屬スルモノ八千九百二十二円四十四錢此ノ人員二千
二百十五人合計一萬四百五十七圓四十九錢此ノ
人員二千九百六十一人ノ多キニ上レリ

清治ハ徵稅吏員ヲ督勵シ此ノ多數ノ滞納者ニ
對シ悉ク督促狀ヲ發付シ更ニ市内ヲ四區ニ分
テ致々トシテ之カ整理ニ努メタル結果徵收額
實ニ九千四百二十円七十一錢人員二千三百三十一人ニ
テ結局大正十一年度ニ繰越シタルモノ僅カニ千五
十四円七十八錢人員二百五十五人ヲ算フルノミニ
至レリ其ノ効績洵ニ偉大ナリト謂フヘシ

(三) 寄留ノ整理

清治大正八年十月千葉町長ニ就任スルヤ先ツ
町政ノ施行ニハ現住人口ヲ確實ニスルニ在リト
爲シ寄留簿ノ不確實ナルヲ遺憾トシ寄留者
ヲ呼出シテ其ノ在否ヲ確メ或ハ寄留届ノ追完
ニ努メタリ今其ノ結果ヲ文書發收簿ニ徵スルニ
清治ノ就職年タル大正八年中ノ發收ハ實ニ
六千六百七十三件ノ多キニ上リ翌大正九年中ノ
件數三千八百九十三件ニ對比スルトキ如何ニ
其ノ整理ニ努メタルヤヲ知ルヘシ

(四) 震災救護事務

大正十二年九月一日前古未曾有ノ関東地方大
震災災ニ遭遇スルヤ清治ハ鉄道第一聯隊陸
軍歩兵學校、千葉市消防組、在郷軍人分

會、青年團員等ノ應援ヲ得テ救護ノ爲ニ
全カヲ傾注シタリ今當時ノ狀況ヲ敘述ス
レハ左ノ如シ
不炊出輸送

九月二日白米七俵ヲ炊出シ之ニ梅干一樽ヲ
添ヘ翌三日ハ白米十俵ヲ炊出シ之ニ梅干
三樽ヲ添ヘ被害ノ甚大ナル東京市本所
附近ノ罹災者ニ輸送配給ヲ爲セリ
只罹災者ノ收容

罹災者中ノ汽車又ハ船舶ニ依リ千葉市ニ
避難セル者ヲ收容救護スル爲九月二日
第一收容所ヲ市内京成電車千葉停
留所ニ開設シ同六日第二收容所ニ

合併セリ

九月三日第二收容所ヲ千葉神社境
内ニ開設シ起エテ同月十一日清製
粉株式會社倉庫内ニ移轉九月ニ

十二日閉鎖セリ

九月二日ヨリ同月二十二日迄二十一日間ニ
於ケル收容人員ハ三千三百十人ニシテ
炊出給與ヲ爲シタル延人員ハ六千四
百六十三人ナリ

八、傷病者ノ救療

罹災者中避難傷病者ニシテ重症者ハ千葉
醫科大學附屬醫院又ハ日本赤十字社千葉
支部臨時救護所ニ收容シ輕症者ハ千葉
市醫師會ノ設ケタル各自ノ救護所ニ救護ヲ
受ケシメタリ其ノ救療人員千葉醫科大學附屬
醫院百四十二人、日本赤十字社千葉支部臨時救
護所五十四人、千葉市醫師會救護所二千四
十一人計二千二百三十七人ナリ

二、衣類ノ寄贈

市内各区長ヲシテ篤志者ヨリ衣類ノ寄附ヲ受ケ
シメタルニ寄贈者千四百十九人衣類一萬二千
三百四點ヲ得タルヲ以テ之ヲ罹災地ニ配給方

千葉縣ニ依託セリ

千葉縣ニ依託シタル前記衣類ノ中三千百
六十一點ヲ縣ヨリ交付セラレ内二千九百七十三
點ヲ一般ノ避難者ニ、殘百八十八點ヲ避難就
學者中衣類ナキ者ニ夫々補修ヲ加ヘテ配給
ヲ了セリ

(五) 公營住宅ノ施設

大正十年六月逋信省簡易生命保險積立金四万五
千五百圓ノ供給ヲ受ケ地ヲ寒川字大地堂廣町同大
地堂、同中野中、同上野中ノ四ヶ所ヲ選ビ第一種
(建坪十七坪)十棟、第二種(建坪十三坪七合五勺)十棟
第三種(建坪九坪七合五勺)十四棟ノ公營住宅ヲ建
設ス當時市内ハ住宅缺乏ニ從テ家賃値上ノ聲

高カリシカ清治ノ此ノ施設ニ依リ各階級ヲ通シテ大ニ
其ノ住宅緩和ヲ見テ得タリ

(六) 教育ノ振興

一、一市一校制ノ実施

小學校ニ於ケル内容ノ統一、訓育ノ充實ヲ固リ且
ツ經費ヲ節約スルハ一市一校制ヲ採用スルニ優レ
ルモノナレトシ當時反對ノ聲アルモ敢テ顧ミス大
正十年九月斷乎トシテ一市一校制ヲ実施シ以テ
小學教育ノ向上ニ盡シタリ

二、小學校ノ設備充實

大正六年暴風雨ノ爲第二尋常小學校倒壊(教
教室残存)應急修理ヲ爲シテ用未ニ部教授
實施同様第四尋常小學校一部倒壊、大破ニ

千葉縣

部教授實施第一尋常小學校千葉尋常小學
校教室不足ニテ大部分ニ部教授實施

以上ノ狀況ニテ大正十年ニハ市立小學校全部教室
大不足ニテニ部教授實施其ノ狀況實ニ慘憺タル
モノアリキ清治ハ就職早々之カ設備ノ完成ニ留
意シ先ツ以テ第二、第四兩尋常小學校ヲ合併
シテ現在ノ千葉第三尋常小學校舎ヲ新築シ次
テ大正十一年度ニ於テ十五万円ノ市債ヲ起
シテ千葉尋常高等小學校(現在第一尋常小
學校)第一千葉尋常小學校(現在第二尋常小
學校)其ノ坪數千五百九十四坪、教室數
四十三、校舍ノ大增築ヲ斷行シ以テ多年ノ
ニ部教授ノ慘苦ヲ撤廢セリ

ハ、登戸尋常小學校ノ建築

本校ハ市内大字登戸ニ所在シ大正十二年震災ノ爲一部倒壊シ殊ニ地盤ハ陥落ヲ爲ス個所アル等之等ノ実況ニ鑑ミルトキ同地ニ再建シ児童ヲ收容スルハ不安ナルヲ以テ地ヲ現在ノ登戸字宮臺ニトシ建坪二百八十坪工費六萬六千八百八十二円大正十三年十月廿三日市會ニ提案議決ヲ得更ニ諸準備ヲ整ヘ起テ大正十三年三月起工同年九月竣エテ告ケ同月二十日ヲ以テ児童ヲ收容スルニ至ラシメタリ現在ノ登戸尋常小學校之レナリ

ニ、商業学校ノ設置

多年經營難ニ苦シタル商業補習学校ノ組織ヲ変更シ地ヲ市内寒川長洲元第ニ千葉尋常小學校跡ニトシ大正十一年三月廿一日文務大臣ノ認可ヲ得修業年限三年ノ商業学校ヲ設置シ以テ同市商業教育ニ一生面ヲ開キ今日ノ商業学校ノ基礎ヲ確立セリ

セ、市水産會ノ設立

大正十年四月水産會法ノ初メテ發布セラルヤ清治ハ海ヲ擁スル千葉市ノ水産業ノ發達ヲ圖ルニ市水産會設立ノ要アリト爲シ熱心有志ヲ懇諭シ大正十一年十二月其ノ設立ヲ見ルニ至リ今日ノ市水産會ナルモノ實ニ清治ノ力ニ依リテ設立セラレタルモノナリ

ハ、交通ノ開發

千葉市内壘井竹下間道路延長四百四十一間幅員三間半ハ大正五年ノ交起エシタルモ中間僅カ十五坪ノ道路敷買収ニ應セサル爲全通セス隣接部居民ハ其ノ土地所有者ヲ壓迫シ事態容易ナラサルモノアリシカ所有者ハ猶頑トシテ買収ニ應

コス桂萼約七年ヲ経過シ清治ハ頗ル之ヲ遺憾トシ熱心同人
ト交渉ヲ遂ケ遂ニ大正十一年三月買収ニ應セシメ茲ニ現在ノ
交通路ヲ見ルニ至レリ千葉寺ヨリオニ小學校ヲ経テ寒川下中宿
ニ通スル道路延長三百四十五間幅員四間ハ從來僅カ幅員
九尺ノ道路ニシテ交通運輸上極メテ不便ナリシカ清治ハ兒童
竝ニ一般交通上ノ不便ニ深ク思フ致シ遂ニ大正十三年三月工
費五千二百九十五円ヲ以テ工ヲ起シ同年六月竣成シ以テ現在
ノ交通路ヲ見ルニ至レリ

以
上

千
葉
縣

正六位勲五等
神田清治

族 籍 平民
舊藩 舊氏名

生年月日 安政元年七月廿三日
産地 千葉縣千葉市寒川千二百番地ハニ合併ノ五

本籍 千葉縣千葉市寒川千二百番地ハニ合併ノ五

現住所

年 號 月 日 任 免 賞 罰 事 故 官 銜

同 明 治 十 年 三 月 一 日 任 千 葉 縣 十 等 警 部 千 葉 縣

同 同 三 月 廿 六 日 警 部 等 級 被 降 級

同 同 十 五 年 一 月 十 日 依 願 免 本 官

同 同 日 任 千 葉 縣 警 部 補

同 同 日 月 俸 貳 拾 四 円 下 賜 候 事

同 同 日 自 今 月 俸 金 拾 五 円 下 賜 候 事

同 同 日 任 千 葉 縣 警 部

同 同 日 月 俸 貳 拾 四 円 下 賜 候 事

同 同 日 兼 任 檢 事 補 千 葉 縣

同 同 日 千 葉 縣 始 審 裁 判 所 詰 命 候 事

同 同 日 本 更 津 支 廳 詰 命 候 事

同 同 日 免 兼 官

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同 同 日 叙 判 任 官 六 等

同	六月廿日	非職ヲ命ス	内務省
同	日	叙正八位	宫内省
同	七月廿日	依願免本官	内閣
同	九月廿日	恩給証書下賜	恩給局
同	七月廿日	任富山縣警部	富山縣
同	日	給四级俸	同
同	七月廿日	俸給令改正	同
同	七月廿日	千葉縣へ出向ヲ命ス	同
同	七月廿日	任千葉縣警部	千葉縣
同	日	給四级俸	同
同	七月廿日	給三级俸	同
同	七月廿日	任千葉縣海上郡長	同
同	七月廿日	叙高等官七等	内閣
同	二月十日	叙從七位	宫内省
千葉縣			
明治五年四月五日	同	陞叙高等官六等	内閣
同	六月一日	二级俸下賜	内務省
同	七月廿日	叙正七位	宫内省
同	七月廿日	任千葉縣千葉郡長	同
同	七月廿日	叙高等官六等	内閣
同	日	二级俸下賜	内務省
同	三月廿日	叙勲六等授瑞宝章	賞勲局
同	一月廿日	文官懲戒令ニ依リ一箇月間年俸 月割額十分ノ一ヲ減ス	千葉縣
同	四月一日	明治廿七八年事件ノ功ニ依リ勲五等雙 光旭日章及金四百五拾四ヲ授ケ賜フ	賞勲局
同	五月廿日	二级俸下賜	内務省
同	七月十日	陞叙高等官五等	内閣
同	九月廿日	叙從六位	宫内省

丙第八九四號

昭和九年九月五日

内務大臣官房人事課長

内閣書記官殿

別紙神田清治特旨叙位ノ件上奏相成候處本人ハ生前功勞ノ外變ニ
郡長退官ノ際高等官十年以上ニ及ビ位一級進メラルベカリシ者ナ
ルニ其ノ恩典ニ浴セサリシモノニ有之候ニ付其ノ御含ヲ以テ特ニ
御詮議相成候様御配意相煩度候

内務省

裏面白紙

急

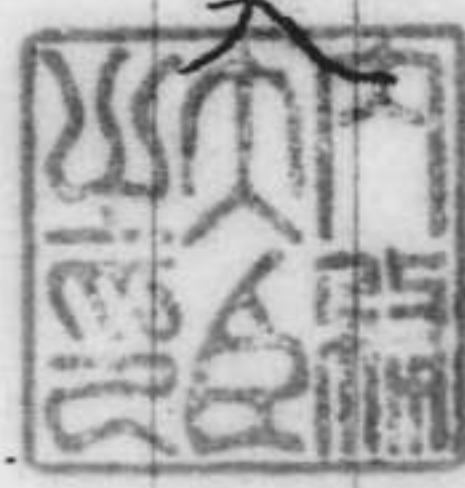
五〇二

別紙 神田清次 特旨叙任

上奏書進達ス

昭和九年九月五日

内務大臣後藤文夫



内閣總理大臣岡田啓介殿

内務省

裏面白紙

裏面白紙

丙 九 九 九 三 七

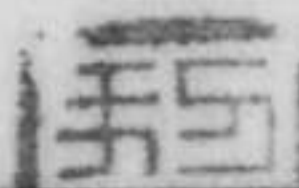
一故正六位上藤五等神田清信

右特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記竝辭令及回送候
條傳達方御取計有之度候也

昭和 九年 九月 十七日

宗秩寮總裁候爵木戸幸一

カ務士リ



宮内省

(様原納)